

18日 水曜

コリント I

9:1 私には自由がないでしょうか。私は使徒ではないのでしょうか。私は私たちの主イエスを見たのではないですか。あなたがたは、主にあって私の働きの実ではありませんか。

9:2 たとい私がほかの人々に対しては使徒でなくとも、少なくともあなたがたに対しては使徒です。あなたがたは、主にあって、私が使徒であることの証印です。

9:3 私をさばく人たちに対して、私は次のように弁明します。

9:4 いったい私たちには飲み食いする権利がないのでしょうか。

9:5 私たちには、ほかの使徒、主の兄弟たち、ケバなどと違って、信者である妻を連れて歩く権利がないのでしょうか。

9:6 それともまた、私とバルナバだけには、生活のための働きをやめる権利がないのでしょうか。

9:7 いったい自分の費用で兵士になる者がいるでしょうか。自分でぶどう園を造りながら、その実を食べない者がいるでしょうか。羊の群れを飼いながら、その乳を飲まない者がいるでしょうか。

9:8 私がこんなことを言うのは、人間の考えによって言っているのでしょうか。律法も同じことを言っているではありませんか。

9:9 モーセの律法には、「穀物をこなしてい る牛に、くつこを掛けてはいけない。」と書いてあります。いったい神は、牛のことを気にかけておられるのでしょうか。

9:10 それとも、もっぱら私たちのために、こう言っておられるのでしょうか。むろん、私



Bible Reference
聖書の記述

たちのためにこう書いてあるのです。なぜなら、耕す者が望みを持って耕し、脱穀する者が分配を受ける望みを持って仕事をするのは当然だからです。

9:11 もし私たちが、あなたがたに御靈のものを蒔いたのであれば、あなたがたから物質的なものを刈り取ることは行き過ぎでしょうか。

9:12 もし、ほかの人々が、あなたがたに対する権利にあずかっているのなら、私たちはなおさらその権利を用いてよいはずではありませんか。それなのに、私たちはこの権利を用いませんでした。かえって、すべてのことについて耐え忍んでいます。それは、キリストの福音に少しの妨げも与えまいとしてなのです。

次にパウロは献身と報酬について述べます。パウロはビリピの教会からは献金によって支えられることを「靈的祝福」として喜びましたが、コリント教会からは何も受けませんでした。コリント教会の信仰がまだ成熟していないからです。

しかしそれでコリントの人々の中には、パウロが献金を受けていないのは使徒ではないからだと、その権威を疑う人もいました。ほかの使徒たちは「生活のための働きをやめ」て、献金によって生活していたからです。

それに対してパウロは自分にはその権利があるということを、兵士、農夫、そして「私たちのために」書いてあるという「穀物をこなしている牛」を例にあげて主張しています。

主のために奉仕する者はすばらしい報酬にあずかる権利があるので、それを否定する必要はありません。ある人は経済的な面で、また靈的な祝福で、さらには生活などの面で、さまざまに祝福があるのです。

それとともに、その権利を用いないで耐え忍ぶ

人を尊重する必要があります。彼らは決してその権利がないのではなく、主の栄光のために判断しているのです。またもしかしたら私たちの信仰の足りなさのゆえに、その人と重荷を分かち合えないでいるのかもしれません。

パウロのように主のために忍んでいる人を尊重し、またその重荷を担い合いましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

